

平成 25 年 5 月 28 日開会

平成 25 年 5 月 28 日閉会

議会改革推進特別委員会会議記録  
(要旨)

久慈市議会事務局

## 議会改革推進特別委員会会議録

平成25年5月28日（火曜日） 午後1時48分

### 議題

・議会改革に関する指導・助言

### 出席委員（22名）

・桑田鉄男 委員長 ・小野寺勝也 副委員長  
・梶谷武由 委員 ・下川原光昭 委員  
・上山昭彦 委員 ・泉川博明 委員  
・木ノ下祐治 委員 ・畑中勇吉 委員  
・砂川利男 委員 ・山口健一 委員  
・澤里富雄 委員 ・中平浩志 委員  
・小柳正人 委員 ・堀崎松男 委員  
・小倉建一 委員 ・城内仲悦 委員  
・中塚佳男 委員 ・下館祥二 委員  
・高屋敷英則 委員 ・宮澤憲司 委員  
・大沢俊光 委員 ・濱欠明宏 委員

### 欠席委員（1名）

・藤島文男 委員

### その他出席議員

・八重櫻友夫 議長

### 講師（専門的知見者）

・早稲田大学マニフェスト研究所  
次席研究員 中村 健 氏

### 事務局職員出席者

事務局 局長 一田昭彦 事務局次長 嵯峨一郎  
庶務グループ 高畑伸一 議事グループ 田高慎  
総括主査 主任 長内紳悟

午後1時48分 開会

○委員長（桑田鉄男君） ただいまから、第7回議会改革推進特別委員会を開会いたします。

出席委員でございますが、藤島委員から欠席の通告がございました。

それでは、次第により進めさせていただきたいと思います。

本日の議題は、議会改革に関する指導・助言ということで、講師に早稲田大学マニフェスト研究所次席研究員の中村先生をお招きしております。

中村先生からは、本年5月から12月までの期間で9回にわたり、本委員会等へ出席いただき、専門的知見のお立場から指導・助言をいただくこととしております。

なお、次回以降は各分科会にも入っていただける予定となっております。

それでは、ただいまから、研修テーマ「久慈市議会に議会改革は必要ないのではないか?!」と題し、中村先生から指導・助言をいただきたいと思います。

中村先生のプロフィール紹介等、ここからは事務局から説明等をさせていただきます。

○事務局（長内紳悟君） それでは、中村先生のプロフィールにつきましてご紹介させていただきます。

本日の次第のほうにも載せさせていただいております。

1971年徳島県池田町、現在は三好市でありますがお生まれでございます。JR四国社員を経まして、平成11年に27歳で徳島県川島町長に初当選されまして、全国最年少の首長とされました。

町長を二期お務めの後、平成16年に川島町を含む4町村が合併し吉野川市が発足するにあたりまして、地方自治の探求を目的に早稲田大学大学院公共経営研究科にご入学されました。

早稲田大学マニフェスト研究所で研究員を兼務されながら大学院を首席でご修了。修士論文は大隈賞を受賞されております。

現在は、早稲田大学マニフェスト研究所次席研究員として、議会改革や行財政改革、協働のまちづくり、ICTを活用した政策立案・政策判断手法、職員の意識改革、選挙など地方自治体が抱えるあらゆるテーマに自らの経験と研究者としての理論構築の双方から対応されてございます。

自らの足で先進地へ視察に行き成功の裏側を常に探っているということでございます。

それでは、ここからは中村先生にお願いしたいと思います。

います。よろしくお願いいたします。

○講師（中村次席研究員） 皆様こんにちは。本日は議会改革の研修会という私自身も緊張するような非常に堅いテーマで、これからお時間をいただくということなんですが、今日はそういう堅苦しいテーマを一旦脱いでいただいて、ざっくばらんに皆さんと一緒に意見交換をさせていただきながら、これから久慈市議会としてどのような活動をされていくのかという方向性みたいなものについて、いろいろ意見を深める機会にしていきたいと考えています。

私、久慈にお邪魔させていただくのが今回で2回目で、前は北川教授と一緒に来させていただきました。北川先生はああいう方ですので、そのとき私はひっそり影を潜めていたんですけども、今日は北川先生がいないという僕の独壇場ということで、皆様方には大変失礼なことを時として言うかもしれませんが、それは若造の戯言だと笑い飛ばしていただけるぐらいのご容赦をいただけたらと思います。

また、前に花巻で議員さんの勉強会に呼んでいただいたことがありまして、その時に久慈市議会の皆様方もたくさん来ていただいていたように記憶しています。

その時のお話なんかも今日のはベースになっておりまして、そういう所を皆さんと一緒に今日は意見交換させていただきたいなと思っていますし、今日は藤島議員さんが欠席ということですが、それ以外の議員さんは皆さんご出席いただいているということですので、議員さん同士での意見交換の機会なんかも今日は作っていただけたらなと思っています。

事務局さんのほうから、今日はだいたい4時半ぐらいまでということで、長いじゃないですか。長いので、僕の話の聞いているのは皆さん本当に退屈でしょうがないと思いますので、休憩も挟みながら、また皆さんから意見をいただきながら進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

その前に、当研究所にこのような機会をいただき、契約も締結させていただきましたことをお礼申し上げます、その分に応えられるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

それで今日は、逆説的なテーマかもしれませんが、今の久慈市議会に議会改革って必要なんですかというところから皆さんと話を組み立てていき

いなと思っているんですよ。

僕はここへ来るまでに、長内君に二戸駅からここまで送っていただいたんですけども、「あまちゃん」が今すごいじゃないですか。僕も同じようにここに来るまでの間にいろいろ聞いてきました。「キョンキョンは今日いるんですか」と、「いないです」と、「じゃあ帰ります」と。

皆様方とこういう難しい話だけ今日はしに行くのかと思いつつながら、トーンは全然下がらないんですけども、頑張っていかなければしょうがないなというふうに思いますが、うちの研究所でも久慈に行ってくるよと言ったら、「今有名なあそこじゃないですか」と、皆それぐらい久慈市というのは有名になってきていると思います。

先週、四国の愛媛県新居浜市という所に行っていたんです。それで僕は徳島県池田町なので、新居浜に行く途中で実家に寄ったんです。そして、「来週久慈に行ってくるんだけど」と言ったら、「あまちゃんの所だね」と、うちの母親がまず言いましたね。

それぐらい久慈市という名前が行き渡っているなということで、久慈市にとっては非常にいいチャンス到来になっているんじゃないかなと思います。

観光客さんもおそらくたくさん来られていると思いますし、いろんな情報発信はまさに今する時じゃないのかなというふうに思います。

そんなことを考えながら、今日は久慈っていろいろ今動いているなと思いつつ参りました。

今日はまず最初に、皆様方と一緒に話し合いという機会を作っていきたいと思っているんですが、前の花巻の時にもそうでしたが、まず僕はここから必ず入るんですよ。

まず、久慈市の現状というのを意識統一して、そこから入ろうかなと思っています。久慈市の将来の人口推計、これは2010年です。こっちは2040年です。

赤いグラフはこないだ3月に人口問題研究所が出した国勢調査をベースに出した人口推計です。2040年には久慈市の人口は24,000人ぐらいになっていますという推計です。

実は、オレンジのグラフは何かというと、人口問題研究所が出すのは5年ごとなんですよ。5年ごとに出します。だから、5年前の平成20年の時に出されたデータではオレンジだったんですよ。

5年経って、今回出されたデータは赤なんです。5年前の推計よりもちょっとずつ少なくなっているでしょ。だから、5年前の推計よりもさらに人口減少が進んでいるということなんです。

5年前はこれぐらいで行くだろうと思っていただけ、もっと今はどんどん減るスピードが速くなっているということです。というのが、この2つを比較すると出てくると思います。

細かく言うと、14歳から65歳までの人口の率がどれぐらいあるのかとか、高齢化率がどれぐらいになるのかというのは、皆さんご承知のたぶん推察どおりで、どんどん子供は減って行って高齢化率がどんどん上がっていくというのは、久慈市でもそうです。これは日本全体でそうですね。

ですので、こう見ていると、久慈市も20%から30%ぐらいは減るんですよ、この20、30年の間に。という前提を持っておこなきゃいけないかなと思ひまして、必ずこの人口というのを僕は見るようにしています。

なんでかという、久慈市というのは行政が皆さんの税金を集めて、その税金によって町が運営されています。ということは、まず人口が減るということは、それだけ市民税が減ります。そして、働き手が減るということはそれだけ当然減るといことです。市民の数が少なくなるということは、そこで働いている雇用の場がなくなるということですので、雇用の場がなくなるということは法人税も減ってくるということですよ。まず一つがそれです。

国全体の人口は1億人増えてきますので、日本の国そのものが国力がどんどん弱くなります。ということは交付税とか補助金も減ってきます。ということは、久慈市の今の全体の1年間の総予算はどんどん減ってくるという方程式が普通に成り立つじゃないですか。

となると、じゃあ久慈市ってどうやって運営していくんですかというところが、非常に要点になってくるだろうなと思います。

じゃあ、そういう久慈市のなかにあつて、議会というのはどういう役割を果たさなきゃいけないんですかみたいな話に当然なってくると思います。

もっと言えば、最近、議会と議員って何が違うんですかとか。花巻に来ていただいた方は、議会って説明したと思うんですが、議会じゃなくて、皆さん一人ひと

り議員さんです。議員さんと議会って何がどう違うんですかというのもあるじゃないですか。

その辺の議論をきちんと整理しておかないといけないのかなと思うんです。

そこで、今日はそういうことを含めて最初、皆様方に話し合っていたらどうかと思ひていますが、今からやっていただくのは、ダイアログというやり方の話し合いの仕方をやっていただきたいと思ひます。

話し合うという日本語を英語に直すと、例えばミーティングとか、トークとか、カンバセーションとか、ディスカッションとか、ディベートとか、ダイアログとか、いろいろあると思ひます。

そのなかでも、僕たちはダイアログという話し合いの手法をいつも採るんですよ。

これはあとで事務局の方にプリントアウトしてもらいますので、書いていると大変ですので、後でプリントアウトしてお配りさせていただくようにします。

ディベートとかだと、例えば僕と議長さんがディベートしますっていうと、なんか討論じゃないですか。僕と議長さんが意見を戦わせて、どっちの意見が正しいとか、どっちが勝つか負けるかとか、そういう優劣をつけるのがディベートなんですよ。

そうじゃなくて、ダイアログというのは自分の主張もはっきりと述べながらも、相手の意見も真摯に聞いてあげる。そして、もし自分の意見と相手の意見に違うポイントがあつたら、なんでこの人と自分の意見とは違うのかなという違いを、お互いに会話を交わしながら探っていくって、その共通項を見つけていくって、じゃあ私たちこういう結論を出そうねという会話のやり方がダイアログなんです。

自分の意見をはっきりと述べる。ただ、自分の主張や立場には固執しないで、自分と相手の思考のプロセスにも注意を払ってください。そして、相手の意見を深く聞いてあげてください。すなわち、これによって相互理解とか共通理解を見出すことが目的の話し合いです。

だから、どっちが正しいとかそういう話し合いじゃないんです。どっちが正しいんじゃない、お互いの妥協点を見つけるような話し合いですね。

真摯に聞く。そして自分の主張も正しく述べる。そういうような話し合いを今からやっていただきたいと思ひます。これは僕、ほとんどこういう説明しか

せずに、今からダイアログというのを一度やっていたかどうかと思っているんです。

ただし、役割を決めていただきたいんです。4人役割を決めてください。

お配りしていただいたように、グループ編成をしました。今日は藤島議員さんが欠席ということで、C班については後で割り振らせていただきますが、基本4人の班にしました。今日はC班が入りますので、5人になるところもありますが、5人の中でもそのうちの4人は役割をそれぞれ振り分けてください。

4人で1班のところは、必ず一人が何かしら役割につけるとします。

まず、一人は司会者です。コーディネーターですね。

もう一人は書記、話し合いの中身を皆が情報共有できるように記録化をしてください。

そして、タイムキーパーです。これは今から時間を70分とりたいと思いますので、70分の中で話し合いをうまく結論まで皆がもっていけるような、そういうタイムキーパーをしてください。

あとは、それぞれの班で発表していただきますので、うちの班はこういう話し合いをして、こんな結論に至りましたと発表する発表者です。

まずは、この4人の役職を最初に決めていただいてから話し合いに移っていただきたいと思います。

話し合いのテーマなんですが、今日はこれについて話し合ってください。「今、久慈市議会に議会改革は必要か?」、必要か否かの結論を述べるとともに、その考えに至った理由を明らかにしてください。

終了時刻は今14時過ぎですので、15時20分とさせていただきます。

あとで、発表時間5分をそれぞれとらせていただきますので、発表者の方は5分発表していただきたいと思います。

グループ編成なんですが、C班が藤島議員さんいらっしゃると思って、できるだけ会派が重ならないように振り分けたつもりなんですが、C班の方は3人になってしまいますので――。

**○濱欠明宏委員** 私、中座しなきゃいけないんですよ。2時40分ごろ中座して1時間ぐらいいなくなるんですよ。

**○講師(中村次席研究員)** 分かりました。それでは、中平議員さんはD班、小倉議員さんはA班、高屋敷議

員さんはF班。これでちょっと今日は一度やってみていただいて、話し合いというのを経験していただくかなと思います。

それでは、15時20分までそれぞれ役割を決めて、まずはダイアログをやっていただきたいと思います。

[ダイアログ開始/終了]

**○講師(中村次席研究員)** それでは時間が来ました。10分間休憩をとります。休憩をとった後、各班の発表者に発表していただきますので、まだ議論が終わっていないところは、この10分を使っていただいても結構です。

次のスタートは15時30分からとしたいと思います。

午後3時20分 休憩

午後3時30分 再開

**○講師(中村次席研究員)** それでは15時30分になりましたので、今から各班の話し合った中身につきまして発表していただきたいと思います。

発表者の方は持ち時間5分です。5分以内に自分たちの班の結論はこうで、そしてそこに至った理由としてはこういう話し合いが出たので、我々としてはこういう結論に至りましたと、他の班に分かりやすく説明していただけるよう心がけていただけたらと思います。

それでは、順番にABCって行くところを、まずは我こそは発表したいというところから手上げ方式でいきたいと思いますが、どなたか。

それでは、F班の発表者の方は前に出て発表をお願いします。ストップウォッチで測りますので、時間が来たら「時間です」とお知らせしたいと思います。

では、F班お願いします。皆さんにも後でコメントを聞きますので、ちゃんと聞いてあげてください。よろしく願いいたします。

**○下館祥二委員** 私どものF班はすべての議員が議会改革は必要であるという結論でありました。

理由としては、箇条書きにしましたので読み上げますが、「議員には専門性が必要となってきているため、議員・議会に定義が必要ではないか」、「二元代表制の充実のためにも議会改革が必要にせまられている」、「今まで議員活動が中心だったと思うが、市民への説明責任が問われている。そこら辺を議会は努力してい

かなければならないのではないか」、「市政をチェックするだけではなく、議員の政策提言をどんどんすべきで、会派等の充実が必要ではないか」、「自治法の改正により通年議会をするためにも議会が力をつける必要がある」、「市民と議会との意見交換の場を設けた場合、事故、公務災害等でそういったものをきちんと整理したうえで活動する必要がある」、「市民の見方が変わってきており、議会活動を市民にお知らせする責任があるのではないか」。

以上、議会改革は必要であるという結論の下に理由づけをさせていただきました。

○講師(中村次席研究員) ありがとうございます。今ので1分40秒残っています。

次、発表されたいという班はいますか。

ではD班をお願いします。

○小野寺勝也委員 D班を発表します。5人のうち、司会は桑田議員、発表は小野寺、タイムキーパーは宮澤議員、書記は上山議員ということで行いました。

結論として、議会改革は必要ということですが、しかし、その必要性についてはけっこう濃淡があるような意見開陳になっているように思います。

「改革は必要だが、何でも変えればいいというわけではない。自分たちの地域に合った改革が必要だ」、「住民とのずれ、乖離を考えなければならない」、「改革ではその中身を考えていかなければならない」、「これまでは定数・報酬の考え方が議会改革であったが、それだけではない。議員としてアピールする場がなければならないし、集合体として活動することも改革の一つだ」、「改革の中身が大事である」、「議会報告会だけではなく、情報交換会をメインに考えたかどうか」、「回を重ねても特定の人だけになる恐れがあるのではないか」、「傍聴者のアンケートを見ると、分かりにくいという意見が多い。その辺が改革のポイントである」、「市民の代表者として、市民が分かるような質問をしなければならないのではないか」、「自治意識を育むような、自治体を会社に例えれば、市民は株主であって奉仕するという視点を持たなければならないのではないか」、「あまり大上段に構えないほうがいい」、「手直ししながら、段階的に進めなければならないのではないか」。

というようなことで、冒頭に言いましたように、結論としては必要だということになりましたけども、そ

の必要性にはけっこう濃淡があったように思います。

最後ですが、「議会広報に議員の賛成・反対の結果をぜひ載せて、市民の判断材料に提供したほうがいい」という意見でした。

こういう意見を取り交わしたなかで、全体としてまとめるということにはなりませんでしたが、結論としては必要ということで報告を終わります。

○講師(中村次席研究員) ありがとうございます。今ので3分20秒でした。

続いて発表されたいという班はいますか。

ではA班をお願いします。

○小柳正人委員 A班の小柳正人でございます。A班は司会が梶谷議員、書記が下川原議員、タイムキーパーが小倉議員、私が発表者ということになりました。

結論からいきますと、議会改革は必要であるということになりましたが、かなりの温度差がありました。

このままでも良いのではないかという意見もありましたが、やはり議論しているうちに、必要だということ、結論的には議会改革は必要だということになりました。

先ほどから言われますように、「市民から議会・議員の姿が見えにくい」、「議員・議会としての説明責任が必要である」、「二元代表制を考えますと、市長と合議体である議会は対等であるわけでありますから、やはり議会として政策提言、立案するためにも勉強をもっとすべきだし、各議員が学ばなければならないのではないか」、「ともすれば改革という定数削減、報酬削減のような声を聞きますが、たとえ定数何名、報酬いくらと決まった場合は、議会としてその根拠を明確に市民に説明できるだけのものがないといけないのではないか」、「明確に示せるだけの勉強をすべきだ」、「意見交換会という形で広聴し、そのことをもって政策提言、立案に結びつけることがあってもよいのではないか」、「だんだん久慈市も人口が減っていくのはしょうがないことではありますが、であるからこそ、効率の良い行政運営を目指すべきである。そのためにもやはり議会改革が必要である」、「通年議会、市長の反問権も取り入れるべきだ」という意見もあるので、これからもっと勉強を重ねて議論していかなければならない、「本日のダイアログのような時間がたくさんあったほうがいい」という意見がありました。「そのことによって、市民の市政に対する意識

が今以上に高まるためにも、議会改革イコール議員の質の向上というものを目指すべきではないか」。

最終的に、我々グループとしての意見は、「万が一、首長が死亡された場合、その代わりを議会の代表者である議長が努めるぐらいの議会を目指したい」というようなことが結論でありました。

いずれにしても、改革は永遠に終わらないという結論で終わります。

**○講師(中村次席研究員)** ありがとうございます。今で4分40秒です。せっかく5分ですからもったいないです。5分の時間を有効に使っていただいて、自分たちの中身を相手に説明する、そういう訓練だと思っただけだったらと思います。

次、B班お願いいたします。

**○泉川博明委員** B班ですが、司会は八重櫻議員、書記が堀崎議員、タイムキーパーが砂川議員、発表者が私でございます。

B班は、テーマ的には3つぐらいで、その議論を長くやりました。だから、報告としましてはそんなにはございませんが、「久慈市は旧久慈市と旧山形村が合併し、今日に至っておりますが、合併により議会改革が特に必要であり、議員同士がお互いに議論をしながらオープンな議会とし、結論を出していくべきである」と、4人でまとめたところです。

さらに、「このような議員間同士の議論をもっともっと増やしていくべきである」と結論付けたところがあります。

そしてまた、「議会改革を後退させずに邁進させていくべき」と結論付けました。

そして、二つ目の問題でありますけども、「議員定数の問題については、削減ありきではなく、真剣に取り組む、お互いが議論し合いながら結論を出していくべきである」と決したところがあります。

そして最後の、「議員報酬については、むやみに下げるべきではなく、また増やすのも市民の皆さんに説明がつかないのではないかとということで、議員報酬についてはむやみに下げるべきではない」と決したところがあります。

そして、B班は最終的には、「議会改革は後退することなく、今後も必要である」と。そして、「これに対して真剣に取り組んでいくべき」と決したところがございます。

テーマはちょっと短かったけれども、B班の報告を終わらせていただきます。

**○講師(中村次席研究員)** 今で3分30秒です。ありがとうございます。

それでは、まだ発表されていないのはE班ですね。

E班お願いします。

**○畑中勇吉委員** E班のほうから報告いたします。役割分担ですが、司会は大沢議員、書記は澤里議員、タイムキーパーは城内議員、発表者は私ということです。

久慈市議会には議会改革は必要だということで、その理由付けですが、政治経済とも多様化し、グローバル化が進んで、大変難しい時期にあると。そういう情勢をしっかりとらえて議員・議会の役割を果たすためには、議員個々の資質の向上が欠かせないということが第一点です。

二点目は、議会は二元代表制ということで、その一翼を担う議会が、本当にその役割を十分果たし得ているのかと。例えば、市長から提案がなされますが、ほぼ100%通るといふことなわけですけども、議員側で二元代表制の一翼を担って議員提案等をこれまでやったことがあるかと言いますと、それもまったくないと。

それから、3点目は、市民意見の吸い上げ、あるいは報告義務を十分に果たしているかと言えば、これまでは個々の議員が個々の立場でそれぞれ実践してきたわけですが、議会が組織的にこれまでやってきたかと言いますと、これまでなかったということでもあります。

ということで、議員の資質向上、市民意見を組織的に吸い上げて、議会としてのしっかりとした対応をしなければならぬ時期だと。そういう意味でも議会改革は必要だという結論になりました。

地方自治体というのは、アジア全体から言いますと少ないということのようでありまして、議員が丁寧な報告と市民から直接、市政や議会に対する要望等を吸い上げ、そのうえで調査等を駆使して、しっかりとした提案等をこれから行わなければならないというふうなことが出されました。

それから、久慈市の場合は旧久慈市、新市であります。基をなしたのは昭和29年の久慈市からでありまして、その間、議員がいろいろ役割を果たしてきたわけではありますが、それが市民に議会の活動、気持ち

十分伝わって、そして市民の心をとらえてきたかと言いますと、必ずしもそうではなかったのではないかと。

例えば、議員定数についても当時は30名で、今は24名まで努力して削減しているわけですが、それらを含めて十分、議会と議員の活動が理解されてきたかという、どうなのかなという意見も出されました。

○講師（中村次席研究員） 時間です。

○畑中勇吉委員 インターネット等でいろいろ放映されておりますけども、そういう面でも30日の議会報告会は大変意義があるのではないかと、こういうふうなことでありまして、皆さん力を合わせてぜひ成果を勝ち取りたいという意見が出されました。

また、傍聴席からの意見――。

○講師（中村次席研究員） 時間です。ありがとうございました。すいません、時間オーバーなので切らせていただいたんですが、ありがとうございました。

どうですかね。今ダイアログというのをやっていたいただきました。傍から客観的に見ていて、非常に盛り上がっていたような印象を受けているんですが、皆さんやってみた感想というのはどうですか。

○下川原光昭委員 発表者も言っていますが、こういうのを多くすべきだし、そして意識改革になれば、市民の方々にも自信を持った活動に繋がるのではないかという気がします。

○講師（中村次席研究員） 僕、あえてホームページの名簿を見させていただいて、わざと会派をぐちゃぐちゃにして、できるだけ期数の若い議員さんと古い議員さんができるだけミックスになるように混ぜてみたつもりなんです。

なぜかという、久慈市議会はちょっと分かりませんが、他のところに行ってみると、実は自分のところの会派以外の方とあまり話したことがないんだとか、期数の浅い議員さんとベテランの議員さんではなかなか意見がかみ合わないんだとか、いろいろ話をこれまで聞いているんですよ。

だから、あえてガラガラポンにしてやってみたんですけど、どうだったですかね。僕が外から見た感じでは、まあまあ話がうまくできたんじゃないかなというふうに思っているんですが。

今日はダイアログをやる時に、4人の役割分担を最初に決めていただきました。司会者の方がいかがだったでしょうか。

○木ノ下祐治委員 私のグループは普段からお付き合いもそれなりで、普段から大先輩、新人あまり分け隔てなく議論していますので、スムーズに運営させていただきました。

○講師（中村次席研究員） ありがとうございます。書記の方はいかがだったでしょうか。

○澤里富雄委員 書きながら発言するというのは普段やっていないので難しいなど。

会派ではよく話し合う機会が多いんですけども、さきほど先生がおっしゃったようなことを感じることができました。

○講師（中村次席研究員） ありがとうございます。タイムキーパーの方はいかがだったでしょうか。

○宮澤憲司委員 個々の時間は設定していません。全員での時間に合わせて討論しました。

○講師（中村次席研究員） ありがとうございます。発表者の方は発表されてみていかがだったでしょうか。

○泉川博明委員 B班は数は少なかったけれども、充実した討議ができたんじゃないかなと思っております。感想としては私、満足しております。

○講師（中村次席研究員） 皆さんこれで和気あいあいということで、分け隔てなく聞いてみたいんですけども、今5つの班の皆様にご発表していただきました。

聞くと、5つの班全部が議会改革は必要だという結論になっているんですよ。

そこで、なんで必要なかに至った理由を話していただいたんですが、どの班の発表を聞いて一番分かりやすかったでしょうか。

良かったと思う班に拍手してください。A班、B班、D班、E班、F班。

ありがとうございます。皆さん役割をやっていたいたんですが、なかなか難しかったんじゃないかなと思っているんですよ。

なぜかという、司会者の方というのは、このテーマについて結論を導き出してくださいと。そして、その考えに至った理由、なんでその考えになったのかというのを明らかにしてくださいという設定で、この話をさせていただきましたので、70分という時間の中で司会者の方は、そのプロセスをまず初めにどういうものを出し合ってもらって、こういうふうな組み立てをしていって、最後結論をこういうふうにとまとめている

という、まず筋書きが頭の中に描かれて、70分の物語、シナリオを作っていかなきゃいけないんです。

そういうことで司会をしていくことにしないと、あつという間に時間になっちゃったとか、本来話し合わなきゃいけないことが全然話し合われてなくて、雑談になっちゃったとかというようなことになり兼ねないんですよ。

だから、司会者というのはすごい技術がいるんですよ。そして、まんべんなく当てていかなきゃいけないんですね。

意見を言う人はたくさん言ってくれるんですけど、なかなか口数の少ないところにはやっぱり振って引き出してあげなきゃいけないんですね。

そして、皆さんの腹の中を全部出して、その中で話を組み立てていくという、これが司会者の役割です。で、非常に難しかったんじゃないかなと思います。

次に、書記の人は、今何について話し合っているのかというのが、グループの中で分かるように、皆と情報共有ができるように記録化していかなきゃいけないんですね。

なので、今日はあえて何も言わずに、事務局の方をお願いをして、黄色いポストイットというのを配っていただきました。本来は、ホワイトボードが各班にあったり、もう少し大きな模造紙があるとなお良いんですが、見ていると、あまりポストイットを使われた形跡がないというふうに傍から見えていたんです。

僕だったらどうするかというのは、まずは今日のテーマがあるじゃないですか。じゃあ必要だと思う理由をまず出してくださいっていったら、ポストイットにいっぱい書いてください。そうしたら、必要というカテゴリーにペタペタ貼っていくんです。

じゃあ今度は必要ないんじゃないかという見方はないですかと僕なら聞きますね。必要ないんじゃないかという意見があれば、ポストイットに書いていくんです。そして、不必要のカテゴリーに貼って、じゃあこういうグループができましたと。

じゃあ今度は、なんで必要なのか、なんで不必要なのかという意見がこれだけ出たのかというのを皆で話し合おうと。で、久慈市を取り巻いている環境はこうだよとか、いろんな話が出てくると思うんです。で、結果として答えを導き出すというように、ポストイットを使って展開していけば、皆で情報共有

化ができるわけです。

ですので、本来は書記の方というのは、見える化をもっと工夫してやっていただけたら、なお盛り上がりやすくなるかなと思います。

タイムキーパーの方は、70分という時間の中で、司会者は最初の10分で必要を出してくださいと。次の10分で不必要というのを出してくださいというシナリオを作ったら、タイムキーパーはそれに合わせて、10分来ましたよとか、もうすぐ10分ですよとか、どんどん会を動かしていかなきゃいけないんです。それがタイムキーパーの役割です。

時間内で十分に議論がし尽せるような時間配分に心がけなきゃいけないんです。

発表者というのは、70分話をされたものを、別の班の方に言うわけですから、まったく他の班の人たちはどんな話をしたのか分かりませんので、分かりやすくプレゼンテーションをする。

これは市民に対してもそうだし、議会の中でもそうだと思うんですが、ここはプレゼンテーション能力が問われてきます。

今日は初めてだったので、こういう感じになりますけども、本来はもっともっとうるものを使ったり、色を駆使するとか、そういうのがあっても本来は面白くなると思います。

ですので、話し合いをするというのは、けっこう難しいんですよ。特に限られた時間の中で、一つのテーマについて話し合いをしていくっていうのは、脇道に逸れずに、そのテーマをきちんと捉まえて結論を導き出していかなきゃいけないので、そこら辺のテクニックというのはとても難しいです。

今日はダイアログという話をしました。話し合うということはとても大切だと思っています。なぜかというと、話し合わないと食わず嫌いになっちゃう可能性があるんですよ。僕もそうですし、民間企業なんかでもそうなんです。食わず嫌いなんです。あの人はどうせこう思っているんじゃないかとか、最初からそういう先入観で見ちゃうんですよ。先入観で見ちゃうと、話し合う前に結論が出ているじゃないですか。

だけど、実は今日、新しい発見があった方もいらっしゃるかもしれないですね。よく話をしてみたら、この人こんな事を考えていたのかとか、そういうのがひょっとしたら分かったというケースもあるんじゃない

ないかなと思います。あいつ憎たらしいなと思っていたけど、けっこう良い事言うじゃないとか、そういうことも発見としてあったかもしれませんよね。

僕は27歳で町長をやったので、当時いわゆるオール野党で、議長さんとか議員さんと本庁舎の中で会っても、皆さんまったく話をしてくれないんですよ。こっちから話しかけても無視されるんですよ。

だけど、これじゃあいけないと思って、お互いに意思疎通を図りたいなと思って、議員さんの家に戸別訪問に行ったんです。今思えば、あまり良くなかったかもしれないんですけど、平日の夕方とか土日とかに、いきなり議員さんの家に行って、ちょっとあげていただけませんかと言って、家に上げていただいて、一対一で話をするとすごい話してくれるんですよ。おまえのここが嫌いだとか、気に食わないんだとか、いろんな事を言ってくれるんですよ。

だけど、分かります、生意気ですみませんという話をして、そういうお考えだったんですねっていうのが、その時初めて分かって、でも僕もこういうふうを考えているんですよと言って、そういうのを半年ぐらい戸別訪問を続けていたら、どんどん話ができるようになってきました。

そうすると、議会とか委員会の中で是々非々でどんどんやれましたので、職員さんも非常に緊張感が高くなって、いい回転が生まれたと思いました。

だから、最初からどうせあの議員さんに言ってもダメだからとか。僕もそうだったんですが、でもそれじゃあずっとダメだったと思います。だけど、会ってみて話をすると、意外と違う面も見えたなと、この人こんなところもあるんだなという所が見えてきましたので、話し合うというのはとても大事だなと思いました。

話し合わないと効果的なプロセスというのが作れないんですね。これちょっと花巻でもやりましたが、こういう方がいると、こういうパターンになると良い話し合いっていうのはできません。皆がまんべんなく意見が言えてなかったり、全然テーマと外れた話をしていたり、最初から結論が決まっていたり、時間の制限があるからとりあえずこの辺でまとめちゃえみたいな。いい話し合いというのは、皆さんも今日話していて、話しやすいなとか話しにくいなとか、そういうのなかったですか。

僕あるんですよ。ないですか。すごくいいなと思ったのは、濱欠議員さんだけだったと思うんですが、めちゃくちゃ頷くんですよ。誰かが言っていることに対して頷くんですよ。僕、自分が喋っていて話しやすいのは、自分の方を向いて頷いてくれる方です。頷いてくれるっていうのは共感の意思を表すということじゃないですか。それは僕からすれば話しやすいです。

逆に、僕にとって話しにくいのは、目も合わせてくれなくて、ずっと下向いている人とか、喋っているのに何かやっている人とか、全然そっぽ向いている人とか、いるじゃないですか。

もっと言えば、喋っているのに途中で立ち上がって携帯をいじって離席するとか、いるんですよ。今、会議やっているんじゃないですかっていうのに、平気で離れる人いるじゃないですか。そういう人がいると非常に話しにくいですよ。

マニフェスト研究所でも議会議員さん向けの研修会をやるんですよ。一番目立つのは、首長さんの研修会では誰一人そういう人はいないんです。議員さんと首長さんと本当に違うのは、議員さんはケータイは鳴るし、鳴ったらすぐ出て行くし、今研修会やっているのに全然構わないんですよ。平気でそういうことするんですよ。

これじゃあちょっと住民の代表として恥ずかしいでしょと僕はいつも見ているんですけど、そんな事地元でやられているんですか。そういうふうに見えています。そういう人がいると、とても話しにくいなと思います。

言いましたように、頭の中を皆で見える化、今日はポストイットとか置いていただいたんですが、議員さんって結構、空中戦なんですよ。俺はこう思う、いや俺はこう思う。話だけが空中で交錯しているんですよ。だから、あとで議事録を見ないと、あの時あの人がこんな事言っていたのがなかなか確認できないんですね。

そうすると、ポストイットに書いてみたり、貼ってみたりしておくと、今こういう議論をしているんだなとか、こんな話が出たなとか、確認しながら喋れるじゃないですか。

だから、話を可視化する、見える化するというのは、効果的な話し合いには非常に必要です。

執行部、行政のほうも見てみてください。会議室に

ホワイトボードとかポストイットを使って話し合っているところってほとんどないんじゃないですかね。ほとんど執行部も空中戦だと思いますよ。

資料を作った担当者が淡々と喋って、それを黙って聞いて、じゃあ皆さん意見ないですか、シーンとして、じゃあ今日の会議は終わりますみたいな。そういう会議ってけっこう多いんじゃないかなと思います。

僕、婦人会とか商工会とかいろんな団体の会合にも出させていだいたりするんですが、けっこうあります。婦人会長さんがペラペラ喋って、みんな下向いて、時間が来たら終わりましたと。今日なんだったんですかみたいなのがあります。そういうのは会議とは言わないんです。それは拷問って言うんですよ。僕はそう思います。

皆さんに今日はこのようにやっていただきました。皆さんの話を聞いていると、久慈市議会として頑張っていこうよと、やっていこうよという話になっていると思うんですが、じゃあなんかやっていこうとするためには、まず同じ情報を同じ量だけ共有するのが大前提になります。

例えば、僕が議員さんに対して、議員さん今度の日曜日釣りに行きませんかと言っても、どこに行くのとか、何時に行くのとか、何釣りに行くのとか、いろいろ言われないと分からないじゃないですか。

例えば、僕は鯛を釣りたいんだとか、6時に集合してとか、自分の中にはあるんですけど、議員さん釣りに行きましょだけの情報だと判断ができないです。

だから、一緒に何かをするということは、何月何日の何時に何を釣りに行きたいんだけど、こんな用意が必要なんだけど、どうですかみたいな、僕が持っている情報を全部出して、それでいいか悪いかの判断ができるじゃないですか。

すなわち、何か一緒にしようと思ったら、情報を全部共有しないと、協働というのはいけませんよ。

久慈市も協働という取り組みをやられていると思いますが、おそらく行政が持っている情報のすべてを市民と同じ量だけ共有しないと、市民との協働なんてあり得ないですね。

もっと言えば、例えば、どこかの部署とどこかの部署、あるいは、どこかの担当とどこかの担当が協働で何かをやるということになっても、その人同士が同じ情報を同じ量だけ共有しないことには協働なんて

市役所の中でも起こりえないですね。

市役所の中で起こりえないということは、市役所と市民だって絶対起こりえないということです。

ですので、情報を共有する、すなわち、何かを進めていくためにはプロセスの可視化であったり、頭の中の見える化だったり、これがとても大事なんです。話し合うということには。

ここに、三角形を書きました。今日は話し合い、言い換えれば対話というのをやっていただきました。

ここに、会話・協議・対話という3つのパターンを書きました。これを僕はこのように考えています。

AさんとBさんが会話をする、会話というのは別に自分の好きなことを言えばいいんです。Aさんは、私こう思います。Bさんは、いえ私はこう思います。これが会話じゃないですか。別に同じところが交わらなくたって、それは別にいいんです。

協議になると、何か共通項を見出さなければいけません。一緒にやるということですから。ですので、AさんとBさんは、同じ所のこの部分、そうだねっていう所を見つけてもらいます。これが協議です。

対話になると、これもAさんとBさんが、私こう思います、私もこう思いますと。同じ所がありました。だけど、この部分とこの部分はAさんとBさんは考え方が違うんですよ。

で、話し合いによって、AさんとBさんの違う溝を埋めるんですよ。話し合いによって、AさんとBさんの合意形成がとれれば、この溝が埋まって、溝が埋まることによって、新しい三角形が作れるんですよ。

これが新しい価値なんです。ですので、対話というのは、こういう2種類とも違って、AさんとBさんの違う二人が同じ納得度を持つことができれば、新しい価値、すなわち、今まで交わらなかったような人たちが交われば、今までになかった新しいものが作り出せる。これが対話のマジックじゃないかと思っています。

やっぱり、好き嫌いとか感情論とか、人間ですから感情の生き物ですけども、お互いの違う所はどこのか、なぜそこが違うのかというのを、お互いが本当に話し合って、腹の中を出し合って、話し合うことでここが埋めれたら、次のステップにいけるんじゃないかと思っています。

ここが今、日本の企業とか組織とか、行政も含めて、

必要なところなんじゃないかなと思っています。

もう一つ、皆さんに聞いていただきたいと思います。

またグループで一分ぐらい話し合っていたきたいんですが、先ほどの発表のなかで、皆さん議会改革が必要だという話をしていただきました。ほとんどの議会が、例えば、市民から今そういう目で見られているとか、いろいろ発表していただきましたが、けっこう手法ばかりの話が出てきていて、「今、久慈市議会に議会改革は必要か？」というテーマを設定し、なんで必要なんですかということも明らかにしてくださいと言いました。そしたら、時代の流れだからとか、二元代表制だからとか、いろいろな意見が出ました。

もっとないですか。何で久慈市議会に議会改革が必要なんですか。もっと言えば、二元代表制だから必要なんですか。さっき言いましたように、市民がそういう目で見始めたから必要なんですか。もっと言えば、何のために久慈市議会というのがあるんですか。

さっき、E班が議員とか議会の役割を果たすためと言われていました。議員とか議会の役割というのは何なんですか。何のために久慈市議会というのがあるんですか。

じゃあこれを1分間、グループで討議してください。

[ダイアログ開始/終了]

○講師(中村次席研究員) よろしいですか。ちょっと時間が短くて申し訳ありません。

じゃあちょっと議員さんに聞いてみたいと思います。何のために久慈市議会というのがあるんですか。どなたか。

○城内仲悦委員 主権者である住民の幸せとか福祉とか、そういった点をやっていくというか、地域住民の幸せのために必要なんじゃないかなと思います。

○砂川利男委員 日本は法治国家だからなければならない。

法治国家の形態の運営をしていく上においては、議会という形を通じて議論して物事を決めていかなければならないから、法治国家であるが故に必要だと思います。

○講師(中村次席研究員) それはなんで法律でそのように決められているんですか。

○砂川利男委員 法律に基づいて国を治める形をとっているから。

○講師(中村次席研究員) 法律はなんでそのように

決めているんですか。

○砂川利男委員 個人の権限、私権によって地利的に運営されたりすることを防ぐために、いろんな法律をもって物事を決めているから、そういうことになるんじゃないかなと思います。

○宮澤憲司委員 議員は市民の負託を受けて議員になるわけですが、その集合体が議会だと思います。

○講師(中村次席研究員) じゃあちょっと切り口を変えて、久慈市には市長は何人いらっしゃるんですか。

市長は1人なんですか。なんで1人なんですか。議員さんは何人いるんですか。なんで24人なんですか。

○宮澤憲司委員 それは条例で決まっているからです。

○講師(中村次席研究員) 市長はなんで1人なんですか。2人じゃダメなんですか。

皆さんお話の中で、二元代表制って出てたじゃないですか。

○宮澤憲司委員 議員は一人ひとりの負託を受けて議会があるわけです。市長は全市民のなかで負託されて。

○講師(中村次席研究員) いわゆる首長、市長さんというのは民意の統合なんです。執行機関でしょ。執行するということは、これをやりますと言って指揮しなければならぬじゃないですか。指揮者は1人じゃなきゃダメなんですよ。

災害が起こった時に、リーダー、指揮する人が何人もいたら混乱しちゃうじゃないですか。指揮する人は1人じゃなきゃいけないんですよ。だから1人なんですよ。

議会はなんで24人いるかという、民意の反映じゃないですか。民意の反映とはどういうことかという、久慈市の人口36,000人を24人の議員さんが意見を吸い上げてきて議会という所に持ってきているわけじゃないですか、市民の意見を。

ここで、こんな意見あるよ、あんな意見あるよって言って話し合っ、これはこうだと言って、ここで決めていくんですよ。で、決めた事を市長がやるんですよ。

これで地方自治というのはバランスをとっているんです。二元代表制というのはそういうことじゃないですか。

だから、市長さんは1人で、議員さんは複数いるん

ですよ。これが地方自治の今の組織としてのあり方じゃないですか。

そうすると、議会というのは、久慈市議会というのは何をしなきゃいけないんですか。

○城内仲悦委員 民意の反映をどうするか。

○講師（中村次席研究員） 久慈市の今の民意というのは何なんですか。

○小柳正人委員 幸せになりたい。

○講師（中村次席研究員） 幸せになるというのはどうということなんですか。

○小柳正人委員 日々心身ともに健康で豊かな生活。

○講師（中村次席研究員） 心身ともに健康で豊かな生活というのはどういうことなんですか。

久慈市民が健康で心身ともに豊かな生活が送れる状態はどういう状態なんですか。それはどうすれば実現できるんですか。

これから人口が減ってくるという話をしました。これからこうなってくる久慈市で、今おっしゃっていたような状態というのは作れるんですか。作れますか。どうすれば作れますか。

ここが、僕は議会の存在価値、存在する意味だと思っています。おっしゃっていただいたように、市民は本当に健康で心身ともに豊かな生活を送りたいと思っています。皆さんもそういう久慈市を作りたいと思っています。じゃあそれはどうすればできるんですか。それを実現するために議会は何をしなきゃいけないんですか。

語弊を恐れずに言いますと、僕は久慈市のいろんなデータを見る限りでは、今一番本当に久慈市がやらなければいけないことは経済対策だと思っています。

これから働く所をどうやって創っていくか。これをやらないと人口はますます右肩下がりのカーブがきつくなると思います。仮に、この状態が推移していくとしても、雇用の場がないとこれは維持できないですね。僕はやっぱり経済対策だと思うんですけど、それはどうですか。

一番問題なのは経済じゃないんですか。久慈市の経済、10年後、20年後、久慈市は何で食っていくんですか。久慈の人は何で食べていけばいいんですか。建設業ですか、あまちゃんですか、何ですか。

これが一番久慈市の課題だと思うんですよ。だから、久慈市の経済を例えば、こういう状態にもってこう

という話があって、そこに議会として今何をしなければいけないかという話が出てきて、この何をしなければいけないから、議会としてこんな動きをしなきゃいけないんだと。

その動きをするために、今の議会の制度だったら、この部分が足りないからここを変えようよ、ここを補おうよ、ここを修正しようよ、これが久慈市議会が今やらなきゃいけない、議会改革というならば、これこそ議会改革じゃないですか。

だから、久慈市の経済を、僕は雇用だと思えますけど、雇用の場を確保するために、議会改革というのがなきゃいけないんじゃないかなと思うんですが、それはどうですかね。

住民の人が議会を見ているからとか、直接的にはそれもそうですけど、でも住民はなんでそう見てるのかというと、みんな幸せになりたいんじゃないですか。議員さんたちがここを実現するために何してくれるんだろうと期待しているんじゃないですかね。議員活動とか議会活動に。ここを実現してほしいんだと思うんですよ。ここを実現するために、今の久慈市議会のこの部分を直さなきゃいけないというのはあるんじゃないですかね。

議会改革というと、何かあたかも動画配信しましたとか、あるじゃないですか。うちもいろいろそういう項目作っていますよ。うちも悪いかもしいけど、でも何のためにやるんですかと、そもそも。

何のために久慈市議会というのはあるんですか。それがあって初めて、久慈市議会という存在が何をしなきゃいけないのかというのが出てくるのではないのかなと思います。

さっき、これを見させていただきました。久慈市復興計画、10年間の計画書です。これを見ると、「新たな視点による新たなまちづくり」とあります。

震災があって、本当に尊い命が失われて大変なご苦労をされて、そこから新しいまちを作ろうという計画です。

「新たな視点による新たなまちづくり」というのは、なんか雑駁としてよく分からないかもしれないけど、でも「新たな視点による新たなまちづくり」というのは、今までと違うっていうメッセージ性はすごく伝わってくるじゃないですか。今までと違うんだと。新たな視点というのは、今までの視点と違う視点ですと。

新たなまちづくりだから、今までのまちづくりとは違うまちづくりなんです。そういうメッセージはとても強く感じます。このキャッチコピーには、

だから、今までやってきたことに変化をつけたいんですよ。改善っていうのは、今までやってきたことをちょっと変えるのが改善なんです。改革っていうのは、今までやってきたことを止めて、新しいことを始めるのが改革なんですよ。

だから、改善と改革というのは全然違うんですね。この復興計画というのは、こっちのほうだと思いますね。

だとしたら、議会としても成果を上げる。成果を上げるというのは、久慈の町を良くしていこう、皆を本当に幸せにしてあげようと、自分たちも幸せになりたい、子供たちとか孫たちに良い久慈を引き継いで俺たちは死んでいくんだと。

そういう議会というのを皆さん求めているんじゃないかなと僕は思うんです。

僕は今、41歳です。80歳まで自分が生きると仮定して、あと約40年どうやって生きていこうかなと時々考えるんですよ。今1,000兆円の借金が日本の国にはあって、毎年毎年40兆しか収入がないのに、90兆も支出をばら撒いています。50兆円赤字経済で回しています。こんなのいつか破綻するじゃないですか。この破綻はどこにいくかという、自分の子供と孫の世代に必ずいくんですよ。

だから、僕よりも自分の子供とそのまた子供たちが一番苦労するんですよ。せめて、それだけはちょっと軽くしてやりたいなど、僕はそのためにこの40年を生きようと思っているんです。良い状態で次にバトンタッチしよう。

そうじゃないと若い人たちにこのままだと僕言いますよ。日本から出ていけと。大変だぞ、海外で生活したほうがいいと。そういう国にしたいくないんですよ。

だから、僕は成果を上げるということ、成果を上げるということは日本の経済を良くするとか、地方から日本を変えていくという視点で、今いろいろやっているんですが、久慈市議会も久慈市をどういう市にして、どういう市を自分たちの子供とか孫に自慢として引き継いでいけるのかというのに取り組んでいただきたいなど、すなわち、そういう成果を上げてほしいなと思っています。

そのためには、今までとは違う成果を上げようと思ったら、今までと違う行動をとらなきゃいけないんです。同じことをやっていたら同じことしか出てこないです。だから行動を変えなきゃいけないんです。

行動を変えるためには、どう動けばいいかという計画を変えなきゃいけないね。

計画を変えるということは、その計画をどんな中身の計画にしようか、どういう方向にもっていこうかって検討しなきゃいけない。この話し合いの仕方が変わらなきゃいけないんです。

だから、今までと違う成果を上げようと思ったら、「新たな視点による新たなまちづくり」、まさにそうじゃないですか。今までと違う成果を上げようと思ったら、こここそ変えないと変わらないんですよ。

だから、僕は話し合い、議会というのは36,000人というのを24人が代弁しているわけじゃないですか。だから、ここをやっていただきたいと思って、今日はダイアログをやっていただきました。

経営という話は省略してもいいぐらいかもしれませんが、経営の「経」はお経の「経」じゃないですか。

「経」という意味は導くとか、そういう意味があるでしょ。道を示すとか。糸へんに土なので、昔、大工さんが家を建てるときに、地面にこういう家を建てたいなと思って構想を描いたら、地面に糸を張って家を組んでいった。それが「経」なんです。

すなわち、経営の「経」というのは、構想を描くとか、道を示すとか、そういう意味があります。

「営」というのは、実行するという意味がありますので、こういう構想を描いたら、その構想が実現するように実行する。ありたい姿を描いて、そのありたい姿を実現するために実行するのが経営です。

だとしたら、久慈市の町を描いて、そのために今久慈市議会は何をしなきゃいけないのか、真っ先に取り組まなきゃいけないのは何なのか。そのためには議会のこの部分を変えなきゃいけないから、ここでしょという部分を変える。これが議会改革じゃないかなと思います。

主権者は国民です。その福利は国民がこれを享受する。代表者がこれを行使する。だから、権力というのは皆さんにあります。議決権とか、首長だと執行権とか、そういう権力は皆さんが持っているんです。代表者が。

だけど、その権力を使って皆が決めてやること、やった成果というのは国民がその成果は享受するんです。まず、日本国憲法の前文でそういう国を目指していこうというのが書かれています。

で、自治というのは、地方公共団体の健全な発達を目的とするとして定められておまして、住民の福祉の増進に努めると。そのために最小の経費で最大の効果を上げよと。

24人でどうすれば久慈市のいわゆる経済の活性化が図れるのかというのを、真剣にやらなきゃいけないんじゃないかなと思います。それで執行部と競い合えばいいんです。そういうことが憲法とか地方自治法には書かれているんですよ。

本当に「あまちゃん」がいいチャンスだと思います。ただ、観光地として失敗した事例を僕は全国でいっぱい見て来ました。大河ドラマのロケ地、連続テレビ小説のロケ地で、その時だけワァッと来るんですよ。ワァッと来てキャッホーって浮かれていたら、放送が終わった途端にパッタリと来なくなりましたと。一瞬にして観光バブルというのが終わりましたという所をいっぱい見て来ました。

それは何かというと、せっかくのチャンスを生かしていないんですね。

観光と交流人口というものはき違えていて、その辺のきちんとした経済（ ）観念というのを持たずに観光客誘致とかに取り組んでしまうと失敗してしまうんですね。

だから、「あまちゃん」なんて良い素材じゃないですか。ここは海女さんの有名なところなんですよ。僕らみたいに海女さんがいない山の中で育った人間としては、とても行ってみたいと思いますよ。

だけど、ここへ来て、今日キョンキョンもないし残念だなと思いましたけども、でも例えば、お店の人が海女さんの格好してくれてたりとか、市役所の人が海女さんの格好してくれてたりとか、おおそういう所なんだって、久慈ってこういう所なんだって思うじゃないですか。

そこで、会話ができるじゃないですか。会話ができるということは、次のチャンスが広がるかもしれないじゃないですか。まちづくりで成功している所は、交流人口で成功しているんですよ。観光客で成功しているんじゃないんですよ。

どうすれば交流人口を増やせるかというのは、また機会があれば別な時に話したいと思いますが、そういうチャンスを、「あまちゃん」は秋ぐらいで終わるんですか。タイムリミットは秋ですよ。一冬越えれば誰も来なくなる可能性があります。

ですので、そこは今から対策をとらないといけないんじゃないかと思います。

今言ったのは要はこの話です。議会改革なんて何のためにやっているかっていう話なんですよ。

さっきおっしゃっていただいた、住民の幸せとか福利厚生とか豊かになるとか、そういうことなんですよ。そのためにあるんじゃないですか。ここをきちんとおさえないといけないと思います。

時間が過ぎてきましたので、この辺で皆さんと最後の意見交換をしたいと思いますが、僕は久慈の市民の皆様方が、議会とか行政、市長さんにそこを期待していると思います。

その期待に、議会もあと2年ですか、その2年間でどうやって応えるのかっていうのを真剣にこうやって話し合っ、まず目標をつくって、そこに2年間でどんな政策を打つんだというのをやってみていただきたいなと思うんです。これが究極の議会改革だと思っています。

何か皆様のほうからご質問などございますでしょうか。

**○大沢俊光委員** 各地方でそれぞれ先生が言ったような、3分の1ぐらいは皆悩んで検討していると思うんですよ。

**○講師（中村次席研究員）** 3分の1ぐらいですか。

**○大沢俊光委員** はい。それをまとめるのは、県議会があり国政の国会があるので、先生はぜひそのエネルギーの半分以上は国会議員の前で大に訴えていただきながら地方と中央が連携してならないと、なかなか思いが達せられないでしょう。

経済を成り立たせるにも、まず金がなけりゃならないし、私は一次産業に従事してきましたけども、国のグローバル化なり産地間競争なり、いろいろなものでいくら技術で努力しても、組織で努力しても潰されたたり、成り立たない産業なんです。

そういうふうなことをやっぱり勉強しながら、国政の中で両輪をもって進めるようなことを先生から訴えてもらえれば、さらに形が出てくるんじゃないでし

ようか。

○講師(中村次席研究員) 訴えさせていただきますが、国がやってくれないと何もできないですか。

○大沢俊光委員 そんなことないですが、だって仕組みがそうでしょ。

○講師(中村次席研究員) 補完性の原理ってあるの分かりますか。そういうのを補完性の原理というんですよ。

○大沢俊光委員 すべてがそうじゃなくして、そういう思いがありますという一つの思いを述べました。

○講師(中村次席研究員) そういう思いがあるんですよ。じゃあ久慈市でもできることあるんですよね。

○大沢俊光委員 だって、国の政策だの県の政策を越えてできますか。

○講師(中村次席研究員) 国がやること、県がやることがあるじゃないですか。じゃあ市がやることは何ですか。

これを補完性の原理というんですよ。補完し合うんですよ。これをもっと専門的なことを言うと、2000年に地方分権一括法が施行されたじゃないですか。機関委任事務が廃止されて、何と何になりました。自治事務と法令受託事務になったでしょ。

じゃあ久慈市に自治事務はいくらありますか。1500ぐらいはあると思います。それを今市でやるんですよ。その中に今言われた市がやる一次産業政策というのはないんですか。それをやったらどういう効果が現れているんですか。

○大沢俊光委員 少し先生と違うところがあるから、対立の話になってはムードを壊しますんで。

○講師(中村次席研究員) これですよ。ダイアログですよ。言っていた方がいいんです、本当に。

○大沢俊光委員 私は一次産業に24年間どっぷり浸かって自らやってきたんですが、いくら努力しても、産業とか経済というのは主体性を持ったところが主体的な成果が上げられない仕組みが資本主義社会だなと感じているんですよ。

もう65歳過ぎましたので、なかなかチャレンジする気持ちが無くなっているんですが、やっぱり国・県・市が補完して、地域経済なり国の経済のあれをたてる仕組みを立てないと、一地方あるいは地方議員だけでは、なかなか先生の思いに沿えない部分があるのかなと感じたということ。

○講師(中村次席研究員) 第一次産業で成功している自治体はたくさんありますが、そこから学べないですか。

○大沢俊光委員 それも全体の何パーセントとかでしょう。

○講師(中村次席研究員) 何パーセントでも成功しているじゃないですか。そこを学びに行かれたんですか。

○大沢俊光委員 歩いてますよ。歩くことも歩いてますが、そっくりそのままできないこともあるし、立地条件もあるし、環境もあるし、なかなか。

○講師(中村次席研究員) 例えばどこに行かれました。

○大沢俊光委員 あまり具体的な市町村なり県名は申し上げません。

○講師(中村次席研究員) ものすごい劣悪な環境で、なのに一次産業で非常に儲かっている地域が自治体としてありますよ。それは日本相手じゃなくて、対アジアとか、対世界とか、日本の国内でも非常に環境が悪いのに、日本の国内相手で儲かっている一次産業者ってあります。その町と生産者が何をやっているかというのは、日本にもいっぱい事例がありますよ。本もいっぱい出ています。

今おっしゃったように、久慈とはすべてが同じ環境じゃないじゃないですか。だから、その部分は久慈バージョンに改良しなければいけないけれども、考え方とかノウハウというのは、久慈の中にもたくさん入ることというのはあると思います。

僕が知っているだけでも、その農業というのはどういう農業か分かりませんが、おそらくヒントになることはたくさんあると思います。

そういうのをテーマとして、議会で取り上げて、じゃあ半年後に議会としてこういう政策を打っていかうよとか、それが議会に求められている成果なんじゃないですかね。僕はそう思うんですが、どうですか。ダイアログです。

○大沢俊光委員 理論的にはそうですが、現実はなかなかそうはいかない市町村なり地方が多いんです。先生に釈迦に説法ですが。

ですから、やっぱりそこは経済は生き物だって言うんですけども、なかなか書き物のおりにいかないし、先進事例のようにいかないし、だから諦めとか止めと

かではなく、皆思っているんです。先生のような気持ちを持ってやっているんですけども、形にできないというのが実態です。

○講師（中村次席研究員） 改革ができないとか、何かうまくいかないという原因って4つぐらいパターンがあるんですよ。

改革が進まない理由として、一つは何が問題なのか気が付かない。次に、気が付いてもやらない。もう一つ、最後までやらない。最後、本気でやらない。

改革がうまくいかない理由は、その4つぐらいだと思っているんですけども、さっき諦めるって言ったじゃないですか。

これはリーダーシップ論になってきます。皆さんは住民の代表、すなわち地域のリーダーです。皆さんお一人お一人が久慈市のリーダーです。

リーダーというのはリーダーシップを発揮しなければいけません。そのリーダーシップの中にいろんな要素のリーダーシップがあると思いますが、聞いてみましょうか。

リーダーシップに欠かせない、これだけは絶対必要だろうという要素というのは何だと思えますか。皆さん、選挙に出られたりして、いろいろリーダー的な仕事、地域のリーダーの役割とかやられていると思いますが、これだけはリーダーに必要なだろうというのを一つ選ぶとしたら何だと思えます。

○城内仲悦委員 信念。

○木ノ下祐治委員 決断力でしょう。

○城内仲悦委員 あとは粘り強さ。

○濱欠明宏委員 行動力。

○梶谷武由委員 情勢分析。

○小野寺勝也委員 調整力、まとめる力。

○宮澤憲司委員 誠意。

○小野寺勝也委員 先見性。

○講師（中村次席研究員） これは全部リーダーには必要な要素だと思います。必要ですよ。

ただ、皆さんとは違うかもしれませんが、僕が考えるリーダーに必要な要素を一つだけ挙げるとしたら、諦めないということがリーダーには必要だと思っています。諦めちゃうと、そこですべてが終わってしまうでしょ。僕らはこういう考え方にいるんですよ。

まずこれを実現したいんだ、これをやりたんだ、まずここを見つけるんですよ。考えるんですよ。そこで、

今を見るじゃないですか。で、ギャップがあるので、いつまでにこれを埋めていこうと、どうやったら埋められるかなというのを頑張ってるんですけど、必ずいろんな障害が出てきます。ここへ行きつくまでには。その出てくる障害をどうやったら乗り越えられるのかということで頑張っていくないと、なかなか課題が大きくなればなるほど、障害というのは大きいんです。だから、諦めないというのが一つ重要な要素かなと思っているんです。

もう一つは、自分の立つ目線が常にここでありたいなど思っているんです。これを絶対実現するんだ。さっきどなたか信念とおっしゃいましたが、信念、すなわち本気度です。

小泉さんが俺は殺されても何とかって言って、改革やったじゃないですか。選挙やったじゃないですか。信念ですよ。だから、俺は絶対これを実現するんだと、やり遂げるんだと。

で、この場所に立っちゃうと、そうは言っても予算がないとか、人がいないとか、基盤が弱いとか、もう高齢だとか。事実ばかりで見ちゃうと、それ言っちゃうと何もできないじゃないですか。

だから、ここへ行きつくためには、じゃあ人がいないならどうすればいいかなと、金がないならどうすればいいかなと、年齢が足りないならどうすればいいかなと、そういうふうにして考えていかないと、いつまで経ってもここには行かないですよ。

だから、久慈市が皆さんで豊かで健やかに過ごせるような土地を作りたいんだとしたら、なんだかんだ言たって、それを突破していかないと絶対無理でしょ。無理じゃないですか。それが本気度じゃないんですか。皆さん、久慈市がどうなってもいいんですか。じゃないですよ。

何のために議員さんになったかということ、皆さんそういうことを最初描いて当選されたり、意欲を持たれて議員になられているんだと思うんです。

僕より年齢が上の方が多いと思うので、それを実現して死にましようよ、本当に。僕、若輩ものだけど、頑張りますよ。契約させていただいた以上、皆さんのサポートをしますんで、やって大手を振って死んでいきましようよ。良い久慈を残しましようよ。

そういう久慈市議会になってほしいんですよ。どうですか、やりませんか。

○大沢俊光委員 やりましょう。

○講師(中村次席研究員) だけど、今言っていた意見はその通りなんです。そういう意見があるんです。そうは言ったってこうじゃないかよと。

僕言ったじゃないですか。気がつかない。気がついてるんですよ。ここがポイントだっていうのは気がつかれているんですよ。気がつかれているから、次にそこをどうすればいいかっていう話にもっていけばいいんですよ。

あとは、本気で最後までやりましょうと。とことん行きましょうというのをぜひやりたいですね。

○大沢俊光委員 やりたいですね。やりましょう。

○講師(中村次席研究員) 一番久慈が成功したぞっていうのを本当にそういうものを作りませんか。ぜひともやりたいと思いますけど、どうですか。

[拍手]

○講師(中村次席研究員) 他にご意見ございますか。よろしければ、これからまた何度かこちらに寄せていただくこととなりますので、今日本当に生意気なことをたくさん申し上げますが、ああいうやつだと思って諦めてください。

今日はありがとうございました。

○事務局(長内紳悟君) 中村先生ありがとうございました。それでは委員長お願いいたします。

○委員長(桑田鉄男君) 中身の濃い指導・助言をいただくことができました。皆さんで感謝の意を表していただきたいと思います。

[拍手]

○委員長(桑田鉄男君) 以上をもちまして、議題の「議会改革に関する指導・助言」は終了いたします。

最後に、3、その他であります。広報広聴部会のほうから議会報告会の件でお願いがあるとのことです。畑中委員お願いします。

○畑中勇吉委員 改革特別委員会の際にアンケートを実施したいなと付け加えてお諮りしたいなと思っていたんですが、忘れてしましまして、明後日のことで大変恐縮ですが、参加市民からアンケートを取らせていただきたいということで、ご了承いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(桑田鉄男君) それではよろしく願いします。明後日が一斉に報告会ということですので、各

班では班長を中心によろしく願います。

その他ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長(桑田鉄男君) 以上で本日の委員会を閉会いたします

午後5時5分 閉会

久慈市議会委員会条例第31条第1項の規定により  
ここに署名する。

議会改革推進特別委員長 桑 田 鉄 男